



「病院感染で問題となる耐性菌の検出状況 および日常検査室で実施可能な耐性菌鑑別法」



長谷川 直樹 先生
(慶應義塾大学医学部 感染制御センター)



柳沢 英二 先生
(株式会社ミロクメディカルラボラトリー)



2015年 **4月17日(金)** **12時05分~12時55分**



第2会場

(国立京都国際会館 1F Annex2) 〒606-0001 京都府京都市左京区宝ヶ池



ランチョンセミナーは整理券制となります。
ランチョンセミナー整理券配布場所: 1階メインホール前ホワイエ
配布時間: 4月17日 7:45より開始します。
セミナー開始5分後整理券は無効となります。



「病院感染で問題となる耐性菌の検出状況および 日常検査室で実施可能な耐性菌鑑別法」



長谷川 直樹 先生 (慶應義塾大学医学部 感染制御センター)



柳沢 英二 先生 (株式会社ミロクメディカルラボラトリー)



問題となる耐性菌

病院感染で問題となる細菌はグラム陽性球菌では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、バンコマイシン耐性腸球菌である。グラム陰性桿菌では β -ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性インフルエンザ、基質拡張型 β -ラクタマーゼ産生菌、タロ β -ラクタマーゼ産生菌、AmpC型 β -ラクタマーゼ過剰産生菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、昨年(平成26年9月18日施行)から5類感染症全数把握となったカルバペネム耐性腸内細菌科細菌などがある。グラム陽性桿菌では、結核菌、*Clostridium difficile*のトキシン陽性菌などがあげられる。

耐性菌鑑別検査法

グラム陽性菌は、抗菌薬の感受性試験で該当薬剤が耐性かを確認すればほぼ、確定に近い検査法になるので臨床的には問題はない。病院感染を疑い詳細な確定をするときのみ遺伝子を実施すればよい。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の鑑別は現状では施設間の差異があり教育していく必要がある。国内で分離されるメタロ β -ラクタマーゼ産生菌の鑑別にはメルカプト酢酸(SMA)法が用いられるがそれ以外の鑑別は困難である。米国のClinical and Laboratory Standards(CLSI)ではKPCと軽度なメタロ β -ラクタマーゼ産生の鑑別にはModified Hodge test が推奨されている。

ヨーロッパでは、European committee on Antimicrobial Susceptibility Testing(EUCAST)のガイドラインに沿い、簡便な鑑別法としてカルバペネマーゼ鑑別ディスク法が行われ、 β -ラクタマーゼをAmpC、メタロ β -ラクタマーゼ、KPC、OXAに分類する方法が行われている。また新規にRapidec CARBA NP(bioMerieux.France)という商品名で商品化されたキットはKPC、NDM、OXA-48を産生するカルバペネム耐性腸内細菌科細菌については優れた成績が報告されている。

遺伝子検査

まだ研究用であるが血液培養陽性検体より、菌種名と耐性遺伝子を同時に測定できる機器(Verigeneシステム)が発売され優れた成績が報告されている。

抗酸菌の遺伝子検査は現在5社が発売し各社長所、短所ある。

本セミナーでは病院感染で問題となる耐性菌の検出状況およびカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の検査法について、また遺伝子検査についても報告する。



東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

東京本社 ☎(03)5427-5181 大阪支店 ☎(06)6209-1948
名古屋支店 ☎(052)211-5730 福岡支店 ☎(092)781-0481
仙台支店 ☎(022)266-2341 山口営業所 ☎(0834)63-9888
ホームページ <http://www.diagnostics.jp.tosohbioscience.com/>